発刊にあたって

理事　竹　元　千多留

時あたかも当公団設立20周年を迎えんとする時、これまでに蓄積された優秀な技術の成果をとりまとめ、技報として発刊することとなったことは、誠によろこばしいことである。論文発表者の努力に敬意を表するとともに、編集委員の労苦に感謝する次第である。

この20年間をふり返ってみるに、公団設立後僅か２ケ年後の昭和39年に湊町～土佐堀間2.3kmを完成して以来、池田線、環状線、守口線、神戸西宮線、東大阪線、西大阪線、堺線、港大橋と順次建設を進め、最近においては昨年３月の松原線(11.2km)の開通、さらに本年６月には11ケ年の苦難の歳月を要し、都市高速道路建設の技術力のすべてを集約した大阪・西宮線（14.3km）を開通にこぎつけ、阪神経済圏の大動脈となる大阪・神戸線を全通することが出来、今や供用延長117.6kmの高速道路網を完成、その偉容を誇っているのである。

この間、わが公団の技術陣は都市部における高速道路の建設技術において最先端を進むものとしての自負と自覚に燃え、先輩公団に追いつけ、追い越せ、を目標として技術の向上に切磋、琢磨し、調査・計画、設計・施工、維持・管理の各部門において立派な成果をあげている。

これらの成果は身近なものとしては、公団内部の技術研究発表会において、その概要が毎年発表され、本年第13回を迎え、発表論文も50編の多きに達している。また各種の学会、道路会議あるいは学術雑誌等に数多く発表されているところである。

これら数多い貴重な成果のうち、特に重要なものを一冊にまとめ発行することは多数の職員に自分の担当以外の部門についても知識を広める機会を与えるとともに、外部にも配布することにより、研究成果の有効利用と、わが公団の技術P・Rに大いに役立つこととなるのである。

当公団も人間でいえば成人式を迎え、まさに精気発剌たる青春を謳歌する時である。大阪湾岸線をはじめ建設中の路線も80kmに及んでおり将来は、京都、奈良、和歌山方面も含めた広い地域にわたる高速道路網の建設も具体化して来るものと思われ前途は洋々たるものがある。

しかしながら、高速道路建設に立ち向う技術者にとって社会経済情勢はまことに厳しいものがあり、住民のニーズも多様化し、高度化してきている。こうした中での都市高速道路建設に当っては広い分野の技術・知識を背景として、巾広い視野のもと、高度な技術力を駆使して行く必要がある。

1980年代は21世紀へ向っての技術開発への挑戦の時代であるといわれている。技報第１号の発刊を契機として、これからの時代の要請に対応出来る新しい手法、新しい技術の研究開発に、今迄より以上に勇気をもって立ち向って行かねばならない。そして、この技報が巻を重ねる毎に暫新な技術研究の成果で、ページ数を増大して行くことを期待し、技術者諸君のたゆまぬ努力と健闘を祈る次第である。